

令和 6 年度 事業報告（案）

施設名 くるめ園

1 総 括

施設運営は「利用者主体」と「利用者の尊厳を守る」を念頭に、令和 6 年度は施設の方針をしっかり周知してきた 1 年であったと思います。1 か月間は法人理念の唱和を行い、1 か月間は服薬マニュアルの唱和、他の 10 か月間は、人権擁護、虐待防止に関わる内容で職員にスローガンを考えてもらい、その意味を確認した上で唱和を実施してきました。

ご利用者の対応については、「支援体制検討会」を継続して開催し、従来の担当の独善的な考えに基づく支援から、複数職員の意見で合意形成された支援の実行に取り組んできました。更にはチームワークを高めるため、一昨年度に始めた朝夕のミーティングと昼ミーティングを継続的に実施し、情報共有が出来る機会を増やしましたが、参加できる職員が少ないことが課題に上がったため、昨年度はより良い方法を見つけるための試行錯誤に取り組みました。ご利用者の権利擁護及び身体拘束についての理解については、全職種全職員が参加する年間 2 回の虐待防止義務研修において、研修後の振り返りシートに記載される「学んだこと」と「今後取り組みたいこと」の内容に、職種に依らないそれぞれ職員の成長を感じることが出来ました。

引き続き、ご利用者の権利擁護及び身体拘束についての理解を更に深められるような研修を継続且つ確実に実行していき、ご利用者が「より良く生きていくため」の支援の実行に取り組んでいきます。また、接遇のみならず、介護技術等の専門性を向上するための人材育成、サービスの質の向上に努めていきます。

2 重点目標の取り組みと来期の課題

1) 利用者を第一義とした管理運営体制の構築

【目標】

利用者支援のみならず、支援体制や組織体制についても利用者を第一義とする考え方を組織風土として構築します。

【取り組み状況と結果】

1. ご利用者の個別ニーズへの対応ができるように介護職員の夜勤・当直体制の変更を行いました。具体的には夜勤の 17:10～翌 9:10 を 17:00～翌 10:00 へ、当直の 14:30～翌 9:00 を 14:30～翌 10:00 へと変更し、これまでの 13 時間勤務から 16 時間勤務で配置することにより、ご利用者とのコミュニケーション時間が増えたこと、居室の整理、買い物支援等の個別対応を行う事が出来るようになりました。

支援体制検討会においては、ご利用者の特徴に合わせた支援のあり方を協議検討することが出来ました。合わせて支援するにおいて、困ったことや悩んでいることについても協議検討し、支援方法を模索できたと思います。

2. 毎月の運営会議で支援体制検討会の進捗を共有する中で、利用者を第一義とした利用者支援や事業運営の実践ができているかを確認してきました。時には、運営会議から支援体制検討会へ差し戻す内容もありましたが、概ね、利用者を第一義とした視点を持って取り組めた

と思います。日頃の会話の中に、「利用者第一義」の言葉が聞かれることが増え、利用者第一義の理念が浸透されていると感じています。

3. 1月に朝のミーティング時間を活用し、1か月間法人の基本理念の唱和を実施しました。そのことで、法人理念が認知されたことが実感できました。

【今後の課題】

1. 支援体制検討会においては、日によっては参加者が少なかったこと、会議に時間が掛かり過ぎていた側面もあるため、来期は業務分担としての位置づけとして再確認し、参加者を増やします。また、会議時間の管理を行いながら、短時間でより充実した話し合いが出来るよう工夫していきます。合わせて、法人統一会議体である「支援のあり方検討会」へ名称を変更し、ご利用者が「より良く生きていくため」をテーマに会議に臨みます。
2. 利用者第一義の視点が共通認識となるよう、法人の基本理念の唱和を行ってきましたが、具体的に理念に基づいた行動が出来るまでには至っていないように感じています。去年は必要に応じ、例年以上に集中的に職員との個人面談に取り組みました。その結果、移乗、脱衣、排泄介護等の介護方法に相違があることがわかりました。来期は安心・安全な介護技術の統一に向けた取り組みを行います。

2) 組織運営の徹底

【目標】

課題が発生した際には個別専断的な対応はせず、ミーティングや会議等で検討し実践していきます。

【取り組み状況と結果】

1. 困難事例が増えた影響もありますが、支援を検討する上で独善的な判断はなくなりました。事あるごとに上長へ相談、複数名であるいは会議等で決定したことを運営に反映することが出来るようになったと思います。また、必要に応じ、その都度記録することを周知してきましたので、記録に対してはかなり意識が高まったと感じています。
2. 会議については、ペーパーレス化を図り、会議のレジュメ及び記録の取り方に工夫を入れた結果、紙にかかる費用の削減とレジュメをまとめる作業時間を大幅に減らすことが出来ました。また、検討した決定した内容は、朝夕のミーティング及び掲示等で丁寧に周知することにより、職員が意見を言える機会が増え、「支援体制検討会で決まったから」等の声が聞こえてくるようになったことから、職員ひとり一人の声が今までよりも支援に反映されるようになったと感じています。

【今後の課題】

1. 会議はテーマに基づいて行いましたが、適切に情報を収集した上で、前もって会議の準備が出来ませんでした。また、利用者支援について論議をする上で、どうしても時間が掛かってしまい効率的に進めることが出来ませんでしたので、来期は会議の準備体制の見直しと時間の管理を意識的に行っていきます。
2. 職員が意見を言える機会は増えたものの、効率的にミーティングや会議等を活用できていない職員も見受けられます。来期は、自身の考えや意見の発信方法も含めて、職員へ周知し、会議体のさらなる成長を目指します。

3) 提供するサービス

【目標】

ご利用者の生活が豊かに安心して自分らしい生活になるよう、「利用者を第一義に」に基づいたサービス提供を目指します。

【取り組み状況と結果】

1. 年間を通して、毎月、職員が作成した接遇目標の読み上げを行ってきました。また、全職種全職員へ年2回の虐待防止研修を実施することで、状況に応じ、その支援が虐待に当たる適切かどうかを議論する場面を見る機会が増え、接遇に意識することが浸透されたと思います。不適切ではないかと思われる支援に対し上長への相談も増え、身体拘束における過去の経験が、人権意識の高まりへと繋がっているように感じています。また、前述の通り、支援体制（勤務時間）の変更をしたことにより、ご利用者とのコミュニケーション時間が増えました。
2. 昨年は1名のご利用者が都営住宅へ地域移行しました。バリアフリーの住宅を探すのは非常に困難で時間は掛かりましたが、無事に地域移行を叶えることが出来ました。地域移行後も、生活の環境が整うまではアフターケア支援を実施し、アフターケア加算を取得しました。
3. ご利用者の外出要望を叶えるため、職員が揃いやすい平日の午前に通院、午後に外出機会を増やすため、お風呂日を土日に変更しました。アフターコロナを迎え、近所のスーパー、イトーヨーカドーへの買い物、学芸大学へのお散歩、小金井公園へのお花見、新宿への外出等、最も外出機会を増やすことが出来た年となり、ご利用者の笑顔をたくさん増やすことが出来ました。

【今後の課題】

1. 不適切支援を見聞きした際は、現場レベルで相互指摘がし合える組織風土を構築することだと思います。職員ひとり一人が発信しやすい環境作りを目指します。

4) 人材育成

【目標】

質の高いサービス提供を行なうため、個人の経験則に偏らない人材育成を行い、職員の専門性の向上を図ります。

【取り組み状況と結果】

適宜、個人面談は実施しましたが、計画通りの人材育成ができませんでした。比較的、課題の多い職員への面談回数を重ねてきたため、研修指導者の育成には全く至ることが出来ませんでした。

【今後の課題】

昨年の個人面談を通じ、各種規程やマニュアル等の理解度を確認した上で、福祉で働くことの意義を踏まえての人材育成が必要であると感じました。根拠に基づいた支援のあり方を啓発していきます。

3 申出のあった苦情の対応

申立月	苦情の内容	対応と結果
4 月	職員の不適切な言動により、気分を害し自尊心を傷つけられた為、当該職員の介護を拒否したい。	当該職員は当該ご利用者への介護には 4 か月間入らなかった。この間、生活指導員（管理職）が双方の面談にあたる。当該職員が自身の言動を振り返り反省している姿を 4 か月間見た当該ご利用者より、反省の気持ちが伝わったとの言葉があり、直接介護に入ることを受け入れて頂けた。
10 月	ケース担当職員の物言いや態度が怖い為、気軽に相談が出来ない。担当を変えて欲しい。	当該職員へは、接遇面や不適切な支援について定期的に面談を実施している。今回の不適切な言動の後に面談をした結果、気持ちの切り替えが必要であると判断し、1 週間の休暇を与えた。当該ご利用者への対応は生活指導員及び主任が対応することとした。休暇を明けた後も、当該職員への面談を継続していたが、当該ご利用者を含めた 2 名のご利用者に対し不適切な発言があった為、法人内他施設での出向研修を 1 か月実施した。
1 月	職員から排便が多く出ることにについて「お前は水を飲み過ぎだ」言動を改めて欲しい。	当該職員に事実確認をしたところ、当該ご利用者に不快と受け取られる態度をしてしまったと反省していた。不適切な言動があったことについては、当該ご利用者に対し、当該職員及び管理者が謝罪した。当該ご利用者からは「自身の言動を振り返り、今後同じことを繰り返さないでくれれば良い」との言葉があった。

4 発生した事故の内容（重大事故 20 件）

種別	件数	摘 要
服薬関係	14 件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4/6 朝食時、別のご利用者の薬を服用させてしまった。薬を袋から取り出し、薬杯に移す際の手順を確認、周知。 ・ 4/17 ベッド上、ご利用者の下に敷いてあったバスタオルに錠剤を 1 錠落ちているのを発見。薬を飲みこまずにだしてしまうことが多い利用者に対しての対応を周知。 ・ 4/23 トイレ内に溶けかけていた錠剤を 1 錠落ちているのを発見。薬を飲みこまずにだしてしまうことが多い利用者に対しての対応を周知。 ・ 4/23 点眼薬、1 日 1 回の点眼に変更になったことに気づかず、従前どおり 1 日 3 回点眼をおこなっていた。受診時、処方変更の内容を確認することを周知。 ・ 4/28 食堂床に錠剤 2 錠落ちているのを発見。服薬マニュアルを再周知。 ・ 5/20 食堂床に錠剤 1 錠落ちているのを発見。服薬マニュアルを再周知。 ・ 6/7 薬局の分包ミスにて、朝の整腸剤が、2 錠のところを 3 錠になっていた。薬が届いた際には医務にても薬の袋の中身を確認することとした。 ・ 6/15 食堂床に錠剤が 1 錠落ちているのを発見。服薬マニュアルを再周知。

転落・転倒	4 件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7/24 廊下に錠剤が 1 錠落ちているのを発見。服薬マニュアルを再周知。 ・ 9/4 点眼薬 3 種類のうち 2 種類しか点眼されていなかった。受診時の確認事項の再周知及び医務対応にて、点眼薬処方者の月初での確認を徹底。 ・ 11/17 薬局の分包ミスにより、1 錠不足して分包されていた。薬局入りインシデント報告を提出してもらい都へ提出。注意を促す。 ・ 12/1 食堂床に錠剤が 1 錠落ちているのを発見。 ・ 1/28 食堂にて錠剤が 1 錠落ちているのを発見。服薬マニュアルを再周知。 ・ 3/8 就寝薬のうち 1 錠を失念。翌朝発見される。当直者の確認不足。
離設	1 件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7/23 自室にて転倒。頭部より出血しており救急車要請する。不穩になると転倒しやすいため、早めの頓服の使用を周知する。 ・ 8/9 廊下にて、独歩でトイレに移動中後ろに転倒。緊急受診対応する。ADL低下の伴い、歩行器の使用を開始する。 ・ 10/31 単独外出中、交差点で後ろに転倒し通行人に助けられる。転倒防止バーを装着して対応。 ・ 12/28 車椅子からベッドへの移乗時、転落する。移乗の仕方を再確認し周知する。
自傷	1 件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2/1 自室にて、挟みを用いてリストカットをして出血しているご利用者を発見。10 年ほど前のくるめ園の体制と現在の体制のすり合わせができずにいることに起因しているため、精神科への相談、傾聴、有料散歩などを活用して対応中。

5 職員体制（令和 7 年 3 月 31 日）

職種	常勤職員	非常勤職員	常勤換算数	法令配置数
施設長	1	0	1	1
副施設長	2（兼務）	0	—	—
事務員	0	1	0.8	2
生活指導員	2	1	0.6	3
介護職員	21	2	1.21	23.3
看護職員	1	4	1.6	2
栄養士	1	0	0	1
調理員等	4	3	2.1	5
医師（嘱託医）	—	2	2	2
介助員	1	0	0	1
介護補助員	—	1	0.03	—
合計	31	14	8.34	39.3

6 研修の実施状況

1) 施設内研修

研修名・テーマ	講師	参加職種	開催時期	延人員
法人内研修（基礎研修）	管理者	新入職	4/11・12	1人
服薬事故対策研修	管理者	介護職・看護職・生活指導職	4/24	6人
法人内研修（個別支援計画）	外部講師	介護職	5/31	1人
感染症対策研修及び訓練（BCP）	管理職	全職種	7/24～	全職員参加
法人内研修（問題解決研修）	外部講師	主任層		7人
虐待防止研修（前期）	管理職	全職種	8月9月 10月	全職員参加
感染対策研修	管理者	介護職・看護職	10/30	
法人内研修（スキルアップ研修）	外部講師	全職種	12/12	5人
虐待防止研修（後期）	管理職	全職種	11月12月 1月2月3月	全職員参加
災害対策研修（BCP）	管理職	全職種	3/26	全職員参加

2) 施設外研修

研修名・テーマ	主催	参加職種	開催時期	延人員
関東地区救護施設大会	救護部会	管理者 支援員	7/4・5	2人
管理職研修	経営連	管理職	9/8	2人
全国救護施設研究協議会	救護部会	支援員	10/17・18	1人
救護部会研修	救護部会	管理者	11/21	3人
地域移行勉強会	救護部会	生活指導職	12/13	1人

7 年間利用者延べ総数

区 分	利用者延べ数
施設入所（定員 50 名）	596 人/600 人

8 行事の実施状況

実施月日	行事名	参 加 者			
		利用者	職 員	その他	計
4 月 21 日	カップ麺大会	49 名			49 名
6 月 11 日	お楽しみ会（梅ジュースづくり）	13 名			13 名
8 月 20 日	カップ麺大会	47 名			47 名
9 月 23 日	くるめ園まつり	45 名			45 名

10 月 15 日	選択食	49 名			49 名
11 月 3 日	学芸大学学園祭	10 名			10 名
11 月 25 日	作品展	11 名			11 名
12 月 19 日	クリスマス昼食会	45 名			45 名
1 月 1～3 日	初詣	30 名			30 名